

牧水ゆかりの旅人宿で、文学と味覚の秋を堪能する みなかみ紀行～若山牧水まつり～



明治 18 年宮崎県東郷町に生まれ、43 年の生涯で約 8700 首の短歌を詠んだと言われています。「旅と酒と自然」を愛し、群馬県には 8 度も足を運んでいました。

提供：若山牧水記念文学館

日本中を旅して、各地で歌を詠んだ若山牧水は、ここ群馬県にも足を運んでいました。特にみなかみ町は、「みなかみ紀行」が発行されているように、牧水が好んだ土地の一つです。牧水が当地に宿泊した際「鮎の甘味噌焼を旨い旨いと二皿食べた（みなかみ紀行にて）」と記録が残っています。10月23日は、牧水がみなかみ町を訪れた日です。この地で過ごした当時の情景を思い浮かべ、みなさんと鮎料理と歌会を楽しみ、牧水気分を味わいましょう。



～湯宿温泉「ゆじゆく金田屋」～

明治元年創業以来、数々の文人の旅の疲れを癒してきた老舗旅館。牧水は「みなかみ紀行」の旅の際にここに宿泊した。牧水のエピソードとして、奥利根の鮎を夕食に食したことが伝えられている。牧水が実際に宿泊した「牧水の間」は、当時の趣をそのままに、今では談話室として、宿泊者が自由に当時に想いを馳せることができる。



開催日時 平成 24 年 10 月 23 日(火)
開催時間 10:00 集合
開催場所 湯宿温泉 ゆじゆく金田屋
料金 おひとり様 3,000 円
定員 先着 20 名様

※料金には、食事代・歌会代・日帰り入浴代が含まれます。
※申込締め切りは、10月21日(日)

《スケジュール》

10:10～11:10 (持谷靖子氏講話)
11:20～12:30 (牧水の間にて、歌会)
12:30～13:30 (錦秋鮎会席膳の昼食)

昼食後、解散

※解散後に、湯宿温泉街文学散歩や日帰り温泉入浴もお楽しみいただけます。

講話者：持谷靖子氏

老舗の猿ヶ京ホテル大女将を務めながら、三国路紀行文学館の館長も務める。牧水や与謝野晶子など、当地を訪れた文人墨客を中心に文学研究を熱心に行っている。地元にも伝わる民話の語り部としても活躍。著書も多数。



錦秋・鮎と秋野菜の
おごっつお膳 品書

突出…秋の三点盛り
煮物…秋の地野菜炊き合せ
蒸物…主湯葉の空也蒸じ
焼物…落鮎の甘味噌
汁椀…鮎とま汁
香物…三点盛り
御飯…地系の炊き込み

ゆじゆく金田屋 館主



ご予約・お問い合わせは
電話 0278-64-0606 (ゆじゆく金田屋)
住所：群馬県利根郡みなかみ町湯宿温泉 608

協力／湯宿温泉旅館協同組合、猿ヶ京温泉旅館組合
与謝野晶子三国路紀行文学館
後援／一般社団法人 みなかみ町観光協会